

北見赤十字病院 ほつと連携

2005
第7号

○発行/北見赤十字病院地域医療連携室広報部 北見市北6条東2丁目1番
http://www.kitamijrc.or.jp E-mail:renkei@kitamijrc.or.jp
○発行責任者/小澤 達吉

平成17年8月1日発行

地域医療支援病院 承認

企画課長 寿 一
真 壁

平成9年12月の医療法改正により、それまでの総合病院の制度が廃止され新たに、紹介患者への医療提供、医療機器等の共同利用、救急医療の実施及び医療従事者の資質向上のための研修を行うなど、かかりつけ医を支援する能力を備えた病院として、地域医療支援病院制度が設けられました。

当院では、地域完結型医療を推進するため、管内の保健所・自治体・医師会の皆様のご協力のもと、地域連携の評価助言をいただく「北見赤十字病院地域医療支援室運営委員会」を平成13年11月に発足。続いて、平成15年7月からは、地域医療の活性化を目的とする「オホーツク地域医療を考える会」を発足させていただき、地域の医療関係者の皆様と共に基盤整備をすすめてまいりました。これらの取り組みにより、平成15年度、かかりつけ医の先生からの紹介と当院からの逆紹介の実績が条件をみたし、平成17年4月28日北海道で4番目の地域医療支援病院の承認を知事より受けることができました。このことは、ひとえに地域の医療関係者の皆様のご支援のたまものと感謝しております。

地域全体の医療レベル向上、医療のネットワーク作りの充実に努め、この承認による効果を地域住民の皆様が理解していただけるよう、努力していきたいと考えております。

なお、現在当院のホームページでは、地域医療支援病院を地域の皆様にご理解いただくため、次の内容を公開しています。

【地域医療支援病院とは】
現在の医療制度では、地域の医院や病院などそれぞれの医療機関が特性を活かし、役割分担することで病気を治していく「地域完結型医療」が求められています。具体的には、病気がやがての日常診療は、かかりつけ医が受け持ち、専門外来・入院治療・救急医療は地域の基幹病院の役割となります。さらに、手術・救急の患者様を受け入れるベッドを常に確保するため、急性期の治療が終了した回復期の患者様は、できるだけ地域の医療機関に受け持っていたいくこととなります。この連携の中核となる病院が、知事が承認する「地域医療支援病院」です。

【当院をご利用いただく皆様にご理解・ご協力をいただきたいこと】
紹介患者様は、正面玄関右「地域医療連携室・紹介患者様専用受付窓口」にて受付をお願いします。かかりつけ医からの紹介患者様や救急患者様を優先的に受け入れることになっております。

初診の際は、できるだけ紹介状をご持参くださいますようお願いいたします。

当院は開放病床の運用を行っております。必要に応じ患者様の同意を得て、かかりつけ医（登録医）と当院医師による共同診療を行います。

【地域医療支援病院の主な承認条件】

基準を満たす、他の医療機関との連携実績があること。

当院は、初診患者数に占める他の医療機関からの紹介患者数の比率が40%を超え、逆紹介患者数の比率が60%を超えています。

地域の医療機関に、病院の施設・医療機器・ベッドを開放し協同利用すること。

24時間体制の救急医療を提供すること。

地域の医療従事者に対する資質向上の研修を実施すること。

地域連携の運用にあたっては、外部有識者による委員会を継続開催し審議を受けること。

ホームページの内容は以上です。

最後に、地域医療支援病院の最初の取り組みとして、かかりつけ医の先生・患者様が安心してご利用いただける「開放病床」の準備をすすめております。改めて地域医療連携室よりご案内を申し上げますのでよろしくお願いたします。

第5回 「オホーツク地域医療 を考える会」を開催して 平成17年5月28日(土)

オホーツク地域医療を考える会
代表世話人 種 市 幸 二

平成17年5月28日(土)ピッツアークホテルにて第5回「オホーツク地域医療を考える会」が開催されました。地域医療に関心のある医師、薬剤師、看護師、コメディカル、事務職等医療従事者125名が参加し、活発な討論が行われ、盛会裏に終わることができました。参加した医療



従事者の皆様に感謝申し上げます。

今回は、「ワークショップ」と題して、「地域連携の試み」と題して、

- 1) 整形外科的疾患の地域連携
- 2) 24時間の訪問看護体制における問題点の2題が報告されました。

整形外科的疾患の地域連携は当病院整形外科の外来診療を紹介・救急患者様のみ対応し、手術中心の入院医療にシフトしたことにより急速に進みました。地域の先生達のご協力はもちろんです。以前より活動していた30名の先生によるオホーツク整形外科懇話会の存在が成功の鍵だったとのことでした。やはり、顔の見える関係、共通の医療認識が重要であったと当病院整形外科部長菅原が報告しました。24時間の訪問看護体制における問題点は北見地域訪問看護ステーション所長 三浦道子さんにより報告されました。

24時間体制での問題点として独居での一人暮らしの老人への対応、病院から在宅への移行時の情報不足、介護者が介護困難になった時の対応の3つを提示しました。いずれも、難しい問題で行政・福祉にも協力を呼びかけて解決しなければならぬものと思われました。また、対応に苦慮する場面が多いと考えられた在

宅患者様の急変時の対応は当病院救命救急センターの利用で円滑に行われているとの報告でした。いずれにしても癌の連携、高齢者の在宅医療に関しては今後も検討を重ねる必要があると思われました。

特別講演は平成11年より地域医療支援病院を取得している筑波メディカルセンターのセンター長である中田義隆先生「地域医療支援病院としての我々の取り組み」-医療の質の向上を目指して-と題して講演をしていただきました。地域医療支援病院としての並々ならぬ創意工夫が語られ、さらなる地域連携を進め、地域の活性を図り、急性期病院を担う責務のある当病院にとって参考になる内容でした。また、診療所や連携病院にとっても地域連携と機能分化的必要性の理解の1つの助けになったのではないかと思います。その中で共同診療カードを持つことで患者様が安心して逆紹介が比較的にスムーズになった実例を示していました。やはり、病診連携、病病連携を円滑にするには患者様に安心していただく医療情報の共有がきわめて重要であることが痛感されました。

当病院も平成17年4月28日に北海道で4番目となる地域医療支援病院に承認されました。地域医療支援病院取得に当たりご支援いただいた北見医師会、網走医師会、遠軽医師会、紋別医師会など関係各位に感謝申し上げます。当病院もこれを契機にさらに地域連携を進めていく所存でございます。

オホーツク地域医療を考える会で話し合われた事柄を着実に進めながら地域完結型医療実現に向け邁進していく所存でありますので、登録医・各医師会の先生達の御協力のほど宜しくお願い申し上げます。

考える会に参加して
研修医より



研修医
隈部 篤寛

5月28日、私は研修医仲間達とオホーツクの地域医療を考える会に参加させて頂いた。4月から消化器科での研修を開始し、現在3ヶ月目である。少しずつ日常業務に慣れてはきているが、まだまだわからない事ばかりの毎日である。今回の会は、そんな日常の研修とは違って病院内外の様々な方のお話を伺い良い機会となった。

会では、北見日赤病院の整形外科部長、菅原先生のお話、北見地域訪問看護ステーションについて、また地域医療支援病院である筑波メディカルセンターの取り組みについてと3つの講演を拝聴した。3つの講演を通して強く感じたのは以下の事である。北見日赤病院はオホーツク地域の中核病院であり、この地域の医療の中心的な役割を担っている事は確かだと思う。しかし、それが可能なのは他の病院、診療所や訪問看護ステーションといった地域の医療施設

と結びついているからであり、そういった地域の施設との連携なしに医療は成り立たないであろうという事である。

普段病院の中でしか仕事をしていないために見えない事が、今回の会を通じて学ぶ事ができた。臨床研修というと病院の中で完結しているように思えるが、よりマクロな視点で地域医療を考える事の必要性を痛感させられた。この会で学んだ事をこれから北見での研修に生かしていきたいと思う。

最後にこのような貴重な機会を与えて下さった皆様方、ありがとうございました。



研修医
一瀬 真紀

私は北見赤十字病院に赴任して三ヶ月目になります。先日のオホーツク地域医療を考える会は、関東地方から北見に来て間もない私にとって意義深いものでした。先生方の講演は大変充実したものでしたが、中でも在宅看護センターのスタッフの方のお話を大変印象深くお聞きしました。新米研修医としては疾患の治療は病院の中で完結しているように思ってしまうがちですが、お話をお聞きするうちに、慢性疾患や高齢者のフォローで重要な役割を果たしているのは、大病院だけではなくむしろ開業の先生や在宅看護スタッフ、薬剤師、保健師、そして何よりも患者さんの家族であるということを感じました。そういった事柄は大学の講義により知識としては持つておりましたが、具体的な地域の事情とともに聞きすると、事実として強い印象となりました。個人は将来、精神神経科心療内科に進むつもり



その後の交流会では、私たち新人研修医の紹介をして頂き、多くの方の知己を得ることができました。その中で、新たに認定看護師をとられた方の紹介があり、その制度に関心を持ちましたので看護部の方にお話を聞き、大変興味深く思いました。医療の専門分化につれて、医師だけではなく看護師にも専門性の求められる状況なのではないかと感じておりましたので、今後そのような認定看護師が増えれば医師にとっても看護側からの専門的な知識を得ることができ、有益であろうと思えました。その日のうちに多くの方にお会いしましたので頭がいっぱいになってしまいました。普段の病院での勤務では得られない情報を多く得ることができました。このような機会を提供して下さいました皆様、どうもありがとうございました。



でおりますが、いずれも扱う疾患は慢性の経過をたどりがちであり、高齢者も多く、地域連携なしには長期フォローが成り立たない分野であります。

また、北見日赤に勤務しておりますと整形外科にかかる方が大変多いことを実感しますが、整形外科部長の菅原先生のご講演ではなるほどと云うなずける部分が多々ありました。大腿骨骨折の予防には多くの労力が注がれてしかるべきであると考えました。

先日は、オホーツク地域医療を考える会に参加させて頂きました。今回で三度目の参加になると思いますが、毎回ワークショップでの病診連携の取り組みの話をとっても楽しみにしています。

考える会に参加して
医療機関
看護師より

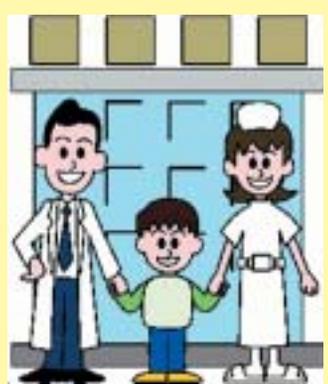
藤江内科クリニック
笹川 まゆみ看護師長

今回は、北見赤十字病院整形外科において、地域完結型医療を目指しての苦労や、在宅患者の二十四時間体制の大変さ等私達の知り得ない部分の苦労を知ることができました。私が当クリニクに勤務してから、一年半以上が過ぎましたが当クリニクにおいても、患者様からは休日や夜間に具合が悪くなつたらどうしたら良いですか。入院が必要になつたら何処へ行けば良いのですかという疑問・不安の声を多く聞いていました。そのような患者様の声に応える為にも、私達は病診連携の重要性を理解し、連携できるように努力が必要であると思っております。

北見赤十字病院には、CT・MRI等の検査の依頼や入院治療の必要な患者様の依頼、糖尿病患者のバス入院や栄養指導等、大変お世話になっております。また、地域医療連携室という窓口がある事で、患者様をお待たせする時間の短縮や患者様の負担が軽減され、患者様からも良かったという声が聞かれるようになって来ました。

私が北見赤十字病院に在籍していた頃は、自科と他病院との関係のみに捉われて、病院全体としての連携

を意識した事は無かった様に思います。しかし、今クリニク勤務で、患者様の持つニーズが多様であり、来院するだけで安心する患者様がいらつしやいます。内科でありながら、疾患だけではなくメンタル面のフォローも大きく、その様な患者様の症状・不安・訴えを受け止めていくのが私達の役割であると思っております。そして、その患者様達や逆紹介された患者様達にも、安心して通院していただき、同じ看護ができるように日々努力を忘れず、そして、連携を密にしてお互いに顔の見える連携ができるようにしていきたいと思っております。



「第6回オホーツク地域医療を考える会」

日時:平成17年11月19日(土)
場所:未定(追ってご連絡いたします)
内容:特別講演
金沢脳神経外科 佐藤秀治先生
『患者中心のネットワークについて』
ワークショップ 疾患別連携

※多数のご参加お待ちしております



お知らせ

「第5回 オホーツク地域医療を考える会」出席者数
医師 34名(当院20名)
医師以外 91名(当院47名)



北海道立北見病院
山口 保 先生

当病院は昭和27年北海道立北見療養所として開設され、道東の結核医療よりスタートしました。緑ヶ丘の山際にあつた古い木造の病院から夕陽ヶ丘通りにある現在の病院に移つて23年。オホーツク圏における医療ニーズの変化に対応し、道の病院が担うべき役割として、当院は結核医療から心臓血管外科、人工透析、循環器内科、呼吸器科などを中心とした医療へと転換を図つてまいりました。病床数は130床（実稼働110床）とコンパクトで、地域の医療機関との役割分担と連携を図るよう努力しております。

に精通した麻酔科医1名で緊急手術に対しても24時間体制で対応しております。循環器内科は4名で循環器疾患に対する薬物治療や狭心症、心筋梗塞に対するカテーテル治療、徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療を行っております。また動脈硬化性疾患の危険因子である高血圧、糖尿病、高脂血症などの管理・治療を行うと共に、慢性腎不全の管理、治療、血液透析・腹膜透析（CAPD）の導入を行っております。呼吸器科は2名で呼吸器専門医として肺癌の診断・治療や、また多様な肺疾患の内科的治療に積極的に取り組んでいます。消化器科は1名ですが、検査や手術対象は心疾患を有するハイリスクな患者様が多く、各科の協力体制の下で治療を行っております。今回、北見赤十字病院が厳しい評価をクリアして日本医療機能評価機構認定病院となりました。当院も5年前に認定されておりますが再認定の時期となりました。今回は最もハードルの高いバージョン5.0での受審となり、職員一同、患者様の目線に立って、病院機能の向上を目指し頑張っております。受審にあつたては必要な人員配置や予算等は道の財政事情もあり、余り期待出来ません。そのためソフト面での勝負が主となりますが、受審により全職員が医療人としての価値のある意識改革を成し遂げられれば幸いです。当院では昨年のMRS A病院感染事例を重く受け止めて教訓化し、ICTのもとにサーベランス・チームとコンサルテーション・チームを対策の実行部隊として組織しました。これによりエビデンスや院内サーベランスに基づいた、より緻密な病院感染防止対策や監視を行い、成果につなげております。この間、感染防止対策上、手術や入院病床の制限などで当院の医療機能を十分に発揮出来ず、周辺の医療機関や住民の皆様に変御迷惑をおかけしてありましたが、現在、病床制限を緩和して手術件数なども回復しており、圏内の皆様が安心して過ごせるよう、さらに病院機能の充実に努めてまいります。

地域完結型医療が求められるなか、地域住民が安心して暮らしていくためには、急性期から在宅ケアに至る医療福祉サービスが滞りなく進むネットワークづくりへの筋道が、地域保健医療計画の中にも示される必要があります。北見赤十字病院がその中核として、地域医療連携のネットワーク構築に努力をされ、今回、北海道より地域医療支援病院として承認されたことに心から敬意を表し、当院も微力ながら出来る役割を担っていきたいと思います。



医療法人社団久仁会
白川病院
白川 久統 先生

白川病院は、昭和43年9月1日前院長故白川久成が白川整形外科として開院。昭和63年白川病院となり、平成7年からは現在の医療法人社団久仁会 白川病院となっております。現在、療養型病床（医療型、介護型）50床の入院施設と整形外科、内科の2診の外来診療体制となっております。また同法人の関連施設として介護老人保健施設 いきいきがあります。外来においては、整形外科では、小児から高齢者までの整形外科一般、スポーツ障害、外傷、変性疾患、骨代謝疾患など幅広く診療させていただいております。外来診療で治療可能な保存療法、また局所麻酔、伝達麻酔で対応可能な小切開、経皮的に行えるレベルの手術はしておりますが、それ以上の手術が必要と判断された場合は、積極的に北見赤十字病院整形外科と連携を取らせていただき、ご紹介させていただいております。



地域連携室を通しての紹介予約により、スムーズな受診が可能になり、患者様には喜んでいただいております。また開放骨折など急を要する新鮮外傷、馬尾症候群をはじめ、安静時痛を伴う腰下肢痛の精査目的の入院など状況によっては、電話による緊急の対応もしていただき、安心してかかりつけ医として連携させていただいております。患者様の中には、日赤の整形外科は、直接受信できないという不満を言われる方が、いまでもまだいらつしやいます。診療が必要な患者様を受け入れる体制はしっかりと整えられており、むしろ地域医療支援病院としてはこのような形がむしろ望ましいものであるというところが、しっかりと浸透していき、ばよりスムーズな流れになっていくのではと思います。（実際私が日赤整形外科に在籍していた当時は、午前中に受付した患者様の診療が午後7時くらいまでかかったり、また院内の多くの病棟に患者様を入院させ、院内に救急のための空床がない様な事もありました。）また共に連携していく私たち開業医自身が安心してかかりつけ医として信頼して受診していただけるよう努力が必要と考えています。



麻酔科 救急副部長 大森 英哉

北見赤十字病院麻酔科では平成7年度よりペインクリニック外来を開設しております。診療体制は麻酔業務の合間の診療ではなく専従医制をとって外来、入院治療に当たってきています。平成16年度は初診250人、再診約7000人の受診がありました。ペインクリニックでの対象疾患は幅広く心身両面に渡り他科との関係が非常に強い特徴を持っています。ペインクリニックの治療としては神経ブロックを活用した治療と神経ブロックは、最近では神経ブロック以外の治療法もあり診療科毎に扱う朝に抄読会があり、新しい文献の報告、学会報告、症例検討が行われ、情報収集の場としても活用させていただいております。顔の見える連携、一貫した治療方針のもとに連携をすすめていくうえで、定期的なカンファレンスも大変重要な場であると思っております。

当科の話に戻りますが、9月に移転し、50床の病院から19床の診療所として新たにスタートする予定となっております。理由としては、医師確保の困難、また病棟・廊下などが狭く現状のままでは、今後の継続が困難であることなどです。新しい

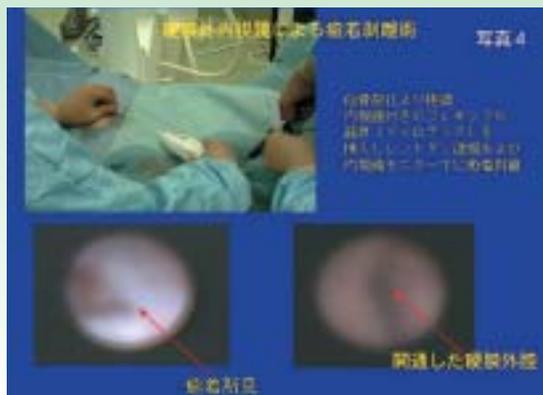
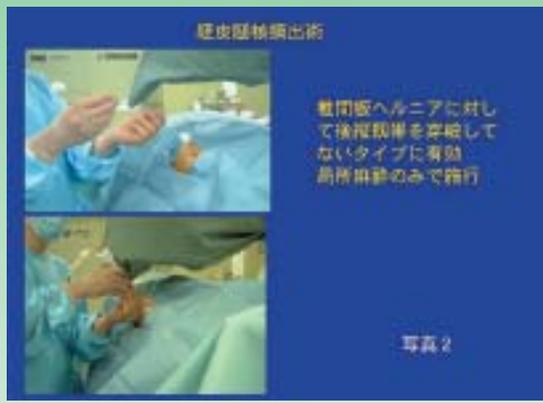
診療所では、病床は個室を中心にゆとりを持ったスペースとし、リハビリスペースをより広く確保して、リハビリ機能をより充実させていきたいと思っております。また訪問看護も取り入れていく予定です。関連の介護老人保健施設、ケアハウスをサポートしていく上で内科は重要と考えており、今後も診療科は、内科と整形外科の2診の体制でいく予定です。

皆さんとの連携の下、微力ながらも地域医療に貢献していきたいと思っております。今後ともよろしく願います。

関連のあるペインクリニック診療と併せて紹介させていただきます。

【脳神経外科】薬剤抵抗性の片頭痛、群発頭痛、筋緊張型頭痛にはレーザー治療、トリガーポイント注射、三叉神経痛に対しては三叉神経末梢枝ブロックの他、重症例には入院のうえガツセル神経節高周波熱凝固治療を施行しております。（写真1）このほか眼瞼顔面痙攣に対してのボツリ又ス毒素注射も随時施行しております。

【整形外科】腰下肢痛症例では硬膜外ブロック、神経根ブロックに抵抗する若年者の後縦靭帯を穿破してないタイプの腰椎ヘルニアには経皮髄核摘出術を施行しております。（写真2）高齢者のヘルニアには椎間板加圧注射を施行し好成績が出ています。（写真3）また脊柱管狭窄症の根障害型には積極的に神経根ブロックに腰部交感神経ブロックを併用治療しております。骨粗鬆症に起因する新鮮圧迫骨折への経皮セメント注入は適応をみて放射線科との協力で対応可能です。また椎間関節への高周波熱凝固も慢性腰痛患者に有効です。このほか Failed Backs



yndromeやMultiple operated back 症例には硬膜外視鏡による癒着剥離術（写真4）も施行機会が増えていきます。

【皮膚科】最も患者の多い帯状疱疹、帯状疱疹後神経痛例には罹患分節への神経ブロックのほかレーザー治療、院内特殊製剤としてカプサイシン、リドカイン、ケタミン、クロニジン軟膏を処方しています。このほか多汗症患者のうち手掌多汗症例には胸腔鏡下交感神経切除術は常時対応可能です。

前回のご案内

第3回 夜間糖尿病教室のご案内

今年度も下記のとおり夜間糖尿病教室を開催し、患者・家族の皆様と共に学習していただきたいと思っております。
 今回より、開始時間を30分遅くし、18時～19時30分にはビデオ上映・栄養相談を予定しておりますので多数の方の出席をお待ちしております。
 受講予定の方は資料の準備がおりますので下記までご連絡下さい。

第1回 糖尿病について
 内科医師 山根 康昭
 平成17年3月17日(木)18時30分～19時30分
 北見赤十字病院 別館 第一会議室

第2回 食事療法の基本
 管理栄養士 井田 亜希子
 平成17年4月21日(木)18時30分～19時30分
 北見赤十字病院 第4階 大講堂

第3回 日常生活の注意
 糖尿病療養指導士 柴田 祐美子
 平成17年5月19日(木)18時30分～19時30分
 北見赤十字病院 第4階 大講堂

*** 受講料は無料です ***

北見赤十字病院 地域医療推進室
 〒090-8666 北見市北6条東2丁目
 Tel (0157)26-9667(直通) Fax(0157)31-2970(直通)

医療社会事業部室副部長 寺崎 多加子

夜間糖尿病教室に是非、参加をお願いします



平成15年11月、第2回オホーツク地域医療連携を考える会において「糖尿病連携パス」が承認され、患者・家族の皆様様に糖尿病についての学習する場として夜間糖尿病教室の開催の希望が出されました。
 当院では第1回平成16年2月～4月、第2回平成16年9月～11月、第3回平成17年3月～5月の合計3回夜間糖尿病教室を実施しました。
 内容は糖尿病とは(医師)、食事療法の基本(管理栄養士)、日常生活の注意(糖尿病療養指導士・看護師)についてなど基本的な知識のもので

す。受講者は患者・家族の皆様や医療関係者で第1回目は合計100名余り受講して頂いたのが徐々に減り、第3回目は10名ほどになり寂しい限りでした。
 受講後のアンケートでは皆様満足を得られているので、受講者が少ないのはPR不足によるものと反省しています。今後は見やすい大きさのポスターと個人向けの案内書など工夫を凝らしてご案内しようと考えています。
 内容は基本的なことにトピックスなども加え、受講してみるととてもためになることばかりですので、初めて糖尿病と言われた方でも理解しやすいものです。
 相談コーナーやビデオ上映もまだ利用者は少ないのですが今後に向けて、この学習会と同様に地道に続けて行きたいと考えています。地域医療連携室では、患者・家族の皆様や他の医療機関の皆様様に糖尿病の学習をする場を提供し、糖尿病の進行を遅くすることで怖い合併症を予防する手助けが出来ればと考えています。
 皆様の参加とご意見お待ちしております。

第3回 夜間糖尿病教室 (実施)

内容	講師	受講者		受講の動機
		院内	院外	
1回目H17.3.17(木) 18:30～19:30大講堂	内科医師 山根 康昭	3名 栄養士 1名 事務 1名 看護師 1名	6名 さこう 3名 白川 3名 患者 2名 家族 1名 看護師 3名	・糖尿病の患者さんが質問してくることがあるため(44歳女性) ・3度の食事作りが大変(71歳女性) ・食事について知りたかった(73歳女性) ・父が糖尿病で内服治療中なので(35歳女性) ・糖尿病教室はほとんど行っていないと思っていたが、今回郵送された資料を見て受けようと思った(49歳女性) ・検査で尿糖が少し多かったので(77歳男性)
2回目H17.4.21(木) 18:30～19:30大講堂	管理栄養士 井田 亜希子	5名 栄養士 2名 事務 2名 看護師 1名	5名 藤江 1名 白川 2名 酒井 2名 患者 2名 家族 1名 看護師 1名	・自分は看護師の立場ですが、知っている事でも何回でも学ぶということはまた違った視点から考える事ができると思い受講しました。(24歳女性) ・主人を理解するため(59歳女性) ・糖尿病になり食事療法を勉強したい(73歳男性) ・糖が多い、血圧が少し高い等、酒井さんがポスターを見たので(60歳男性)
3回目H17.5.19(木) 18:30～19:30大講堂	糖尿病療養指導士 柴田 祐美子	3名 栄養士 1名 事務 2名	5名 藤江 1名 白川 2名 酒井 3名 患者 3名 家族 1名 看護師 1名	・糖尿病になり受講して食事療法など今後の参考にしたい(73歳男性) ・主人の糖尿を理解したいため(59歳女性) ・酒井内科で「ポスター」を見て、弱糖尿病と思い自分自身が強く自覚するために(60歳男性) ・薦められて(62歳女性)

内容について

- ・受講者は院外より延べ16名が受講した。多くはないが、受講者が皆受講して満足感が得られている。
- ・今回より開始時間を30分遅くし、18:30～19:30とした。入院患者の受講を考慮して遅くしたが、受講者は0であった。内科入院の場合は、個別指導されるためと思われる。日中が良いとの意見も1名あったがほとんどが適当と答えている。
- ・18:00～18:30にビデオ上映や相談コーナーも開いた。開始までにビデオを観ている人はいたが、そのために来た人はいず有効的ではなかった。
- ・藤江、酒井、白川、さこう医院の患者様や家族の方、看護師の方々に参加して頂き概ね好評であった。
- ・ポスターはA4としていたが、A3の希望があり送付した。掲示するにはA3以上の大きさが見やすいと思われるので今後検討する。
- ・医療機関の勧めやポスターを見ての受講もあり、今後も地道に続けたい。

就任ご挨拶



副院長
荒川 穰二

このたび前副院長石川信義先生の後任として4月から副院長に就任しました荒川穰二（あらかわじょうじ）です。よろしくお願ひ申し上げます。平成11年9月に旭川赤十字病院から北見赤十字病院に麻酔科部長として赴任して約6年がたちました。その間手術室長、集中治療室長として、手術室運営・麻酔業務はもとより救急集中治療に携わり、多くの人々に支えられ大過なく務めることができました。これからはオホーツク医療圏のセンター病院・公的受託拠点病院として、患者様にとって安心と満足の得られる病院を目指すために、皆様のご協力のもとに地域の医療連携を更に強化して、地域完結医療・急性期医療を確立できるよう微力ながら力を尽くしてまいります。特に（私が多く関わります）救命救急センター、集中治療室、手術室等、中央部門の整備とより一層の強化・充実が、必要不可欠なものと考えています。そのことにより、当院のみならずオホーツク医療圏の中央部門として機能し、地域の患者様にとつ



て最後の砦となるよう努力いたしました。昨今、急速に変化し続ける医療環境に、病院も変化して柔軟に対応することが求められています。国が推進する医療費抑制政策と市場経済原理に基づく医療改革に対応しながら、医療の安全と質を保証していくことが必要です。そのため、質を確保しながら効率的に医療を行うこと、患者様の健康を維持するために地域が一体となつて透明性のある医療を展開して欲しい医療情勢を乗り切っていくことが大切だと思います。当院は、クリニカルパスの積極的な利用、DPCの導入、電子カルテ化に向けて体制作りを推し進めて、医療の標準化、効率化を目指しています。本年4月28日には、皆様のご援助により道内で4番目となる地域医療支援病院の指定を受けることができました。患者様の紹介、逆紹介、さらに開放病床の運用はもとより、さらにオホーツク地域医療を考える会、講演会、カンファレンス、勉強会等を通して、双方の情報を共有化して、皆様と共にオホーツク圏の医療の質を維持することが重要と思えます。

見赤十字看護専門学校で看護基礎教育に19年間携わり、その後病院勤務になりました。さて、当院はこの地域のセンター病院として、オホーツク医療圏の皆様方と多くの点で連携を図つてまいりました。看護部として研修の受け入れや講師派遣など可能な範囲で行っていました。

このたび、地域の皆様のお陰をもちまして、地域医療支援病院の認可を得ることができました。5月に行われた筑波メデイカルセンターの中田センター長の講演などを参考に、地域医療支援病院としての取り組みがより具体的になりました。その内容は、紹介患者に対する医療の提供、機器・施設等の共同利用の実施、救急医療の提供、病床の提供、地域の医療従事者に対する研修の実施等です。看護部としても今までの研修会開催と研修の受け入れに加え、認定看護師が誕生した際には、患者に対する相談体制と地域の医療従事者に対する研修の実施を計画的に行わなければならないと考えています。

今はまだ、情報収集している段階ですが、地域の皆様に顔を覚えていただき、より一層連携が図れるように努めたいと考えておりますので今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私自身まだ若輩者であり、院長小澤達吉先生、副院長種市幸二先生をはじめ病院のスタッフに助けていただきながら本職を務めております。今後、皆様のご協力、ご支援とともに、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



看護部長
上野 富衣

地域の皆様こんにちは。この度、下重看護部長の後任として4月から北見赤十字病院の看護部長を拝命致しました上野富衣です。私は平成14年3月に閉校となつた北

をいただきましたことに心から厚くお礼申し上げますとともに今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

既にご承知のとおり、当院はオホーツク圏の救命救急センターを併設する地方センター病院として、現在の病院機能分化時代において当院の果たすべき役割は、急性期医療を担い地域完結型医療を目指すこととして、14年度から院内体制の整備を行うとともに、15年7月に各医療機関、老人保健施設、社会福祉施設との連携体制を充実する目的で、オホーツク地域医療を考える会を発足し、登録医の協力をいただき地域連携プログラムの整備を急速に進めさせていただきます。

このたび、皆様のご支援によりまして地域の診療所や病院の後方支援を担う地域医療支援病院として道から承認をいただきました。このことは地域の医療現場と密接な信頼関係を保ち、医療の役割分担の中核としてその任を果たしていかなければなりません。地域医療支援病院としてその役割を果たしていくためには、関係医療機関との連携をより一層深め開かれた病院として認知していただき、地域住民の皆様にご理解、信頼をいただくことが最重要なことと認識しており更なる努力を傾注する所存でございます。

現下においては、臨床研修制度が地域における医師確保の大きなマイナスイメージとも言われており当地域においても例外ではありません。その中であつて、地方センター病院として多くの政策医療を引き受けておりその責務は誠に大きいものがありますが、関係医療機関の皆さまと一層連携を強固なものとして、役割を果たしていく所存でございますので、重ねてご支援・ご協力のほどをお願ひ申し上げます。



事務部長
後藤 正志

昨年4月1日付で日本赤十字社北海道支部へ異動を命ぜられ、北見を離れましたがこのたびの人事で再度当院勤務を命ぜられ4月1日着任いたしました。在職中及び不在期間はいずれもご支援・ご協力のほどをお願ひ申し上げます。

お知らせ

日本マシキギ学会指導医認定



平成17年4月1日、当院、小林一郎第二小児科部長が、『日本アレルギー学会専門医・指導医（小児科）』として認定されました。併せて、『日本アレルギー学会認定教育施設（小児科）』としても認定を受けました。



看護師
脇本 奈緒子

ストーマ外来開設

7月下旬から開設するストーマ外来を担当します脇本 奈緒子と申します。約10年前よりストーマを持つ患者様と関わっておりますが、個々の患者様に合ったケアを提供するためには専門的知識が必要であると痛感し、日本看護協会研修学校のW O

（創傷・オストミー・失禁）看護学科で1年間学び、認定看護師としての資格を取得しました。今後は地域で生活されているストーマを持つ患者様のよき相談窓口となれますように、努力してまいります。ストーマ外来は、外科（内線1229）・第2・4木曜日、泌尿器科（内線1240）・第4水曜日ですが、まずはお電話でお気軽に御相談ください。

糖尿病教室開催予定

日時：平成17年10月23日（日）
時間：午前10時～11時半
場所：北見赤十字病院 東館4階大講堂
内容：糖尿病について 食事療法の基本 日常生活について

地域医療支援病院 北見赤十字病院

『理念』

人道・博愛に基づき、患者様を尊重した医療を提供し、地域の期待と信頼に応えます。

『基本方針』

1. 急性期医療を担う病院として、「救命救急医療」を積極的に展開します。
2. 患者様の諸権利を尊重した同意と説明を基に診療します。
3. 患者様・地域住民のご意見を尊重し、病院の改善に努めます。
4. 災害救護活動・赤十字救急法等の普及活動を通じて、社会に貢献します。

『患者様の権利』

わたし達は患者様の権利を尊重し、十分な説明と同意に基づいた医療を行ないます。

1. 誰もが、良質な医療を平等に受ける権利があります。
2. 誰もが、一人の人間として尊重される権利があります。
3. 誰もが、わかりやすい言葉や方法で、十分な説明を受ける権利があります。
4. 誰もが、自らの意思で医療行為を選択する権利があります。
5. 誰もが、プライバシーを厳格に保護される権利があります。

外来ご案内

診療科目

内科	脳神経外科
消化器科	皮膚科
精神神経科	泌尿器科
循環器科	産婦人科
小児科	眼科
外科	耳鼻咽喉科
整形外科	放射線科
形成外科	麻酔科

休診

土曜日 日曜日 祝日
 12月29日～1月3日
 5月1日(日本赤十字社創立記念日)

事前予約について

紹介状を持参される患者様につきましては、患者様の受診希望日時を事前にFAXにて予約診療のお申込みいただきますと、診察当日、待ち時間が短縮されます。ぜひご利用願います。(但し、急患の場合は各科へ直接連絡願います。)

地域医療連携室
 取扱い時間：午前8:30～午後4:00
 (月曜日～金曜日)

FAX (0157) 31-2970
 TEL (0157) 26-9667
 URL <http://www.kitami.jrc.or.jp>

診察カード

診察券は全科共通で使用いたします。ご来院時に必ずお持ちください。

保険証

健康保険証はご来院時に確認させていただいております。特に、更新・変更の際は必ずご提出ください。



「外来化学療法センター」

北見赤十字病院 診療一覧表

都合により担当医が変更になる場合があります。

平成17年7月1日現在

診療科	月	火	水	木	金		
内科	午前	種市	種市	種市	種市	笠原(郁)	
		浄土	田村	田村	田村	田中	
		笠原	浄土	浄土	笠原	山根	
		笠原(郁)	笠原	笠原(郁)	山根	坂東	
		山根	田中	田中	坂東		
		坂東	山根	中垣	中垣		
	午後	検査・予約診療・急患診療のみ					
消化器科	午前	渡邊	大和	渡邊	渡邊	大和	
	午後	品田	上林	品田	上林	上林	
循環器科	午前	岩野	中川	岩野	中川	中川	
	午後	乗安	徳原	乗安	乗安	徳原	
精神神経科	午前	新患(再来)	塚本	坂内	嶋田	塚本	
	午後	再来	坂内	嶋田	塚本	嶋田・塚本	
小児科	午前	三河	小林	三河	小林	三河	
		小林	三河	小林	三河	小林	
	午後	特殊	小林	三河	三河	斉田	三河
			那須	那須・高橋	小林	那須・古瀬	小林
外科	午前	新患	須永	村上	池田	新里	
	午後	再来	村川	村上	須永	池田	
	血管外科	村川	村上	須永	池田	北上	
整形外科	午前	菅原	菅原	島崎	高橋	菅原	
		島崎	中川	妹尾	中川	島崎	
		高橋	上田	上田	妹尾	高橋	
午後	妹尾	手術	手術	(伊藤(隔週))	中川		
形成外科	午前	勝沼	手術	竹内	竹内	杉野	
	午後	竹内	手術	竹内	手術	竹内	
		勝沼		勝沼	手術	勝沼	
脳神経外科	午前	鈴木	苫米地	鈴木	苫米地	前田	
皮膚科	午後	予約診療	急患診療のみ	予約診療	急患診療のみ	急患診療のみ	
	午後	急患診療		急患診療		急患診療	
泌尿器科	午前	飛澤	飛澤	飛澤	飛澤	飛澤	
	午後	西	西	西	西	西	
産婦人科	午前	飛澤	手術	飛澤	飛澤	手術	
		西		西	西		
	午後	藤井	藤井	藤井	藤井	藤井	
眼科	午前	本谷	本谷	本谷	本谷	本谷	
	午後	中園	中園	中園	中園	中園	
		検査	手術	手術	手術	検査	
耳鼻咽喉科	午前	婦人科	山川	水沼	倉橋	山川	
	午後	産科	倉橋	郷久	佐藤	郷久	
放射線科	午後	手術	郷久	佐藤	山川	倉橋	
	午後	手術	検査・母親学級	手術	1ヶ月健診・検査	手術	
麻酔科	午前	池	野見山	手術	菅原	野見山	
	午後	菅原	池	手術	菅原	池	
形成外科	午後	池	菅原	手術	菅原	池	
	午後	菅原	手術	手術	手術	菅原	
耳鼻咽喉科	午後	菅原	手術	手術	手術	菅原	
	午後	菅原	手術	手術	手術	菅原	
放射線科	午後	菅原	手術	手術	手術	菅原	
	午後	菅原	手術	手術	手術	菅原	
麻酔科	午後	菅原	手術	手術	手術	菅原	
	午後	菅原	手術	手術	手術	菅原	